

国内クレジット認証委員会御中

## 実績確認概要書

平成22年2月13日

審査機関名 株式会社 JACO CDM

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	バイオマス（揚げ物廃油）ボイラー利用等による省エネルギー事業
承認番号	JCDM-PJ0041
排出削減事業者名	株式会社 藤田食品
排出削減共同実施事業者名	株式会社 三井住友銀行 三井住友ファイナンス&リース株式会社
事業実施場所	兵庫県養父市八鹿町上小田
事業の概要	バイオマスボイラーの導入により豆腐揚げ製造工程で排出される廃油を燃料として有効利用すること、また、照明設備の更新による省エネルギー対策を実施することにより、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	234 t CO2/年（事業実施期間合計936 tCO2）
国内クレジット認証期間	開始日 2009年4月1日 終了予定日 2013年3月31日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新 方法論番号 006 照明設備の更新

### 2. 本実績確認の対象期間

2009年4月1日～2009年12月31日（第1回目実績報告）

### 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	189 tCO <sub>2</sub> (2009年4月1日～2009年12月31日)
-------	--

### 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること	<p>1)開始日の確認（初回実績確認の場合）</p> <p>承認排出削減計画に従い、予定通りバイオマスボイラーの導入、照明設備の更新が実施されたことを現地視察により確認している。</p> <p>2)対象期間中の設備稼働確認</p> <p>オイルメーターによるバイオマスボイラー廃油（なたね油）使用量の計測記録、生産日報による工場稼働時間の記録にて、本実績報告期間における導入設備が稼働していたことを確認している。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>1)モニタリング方法の確認</p> <p>実績報告書ならびに現地訪問により、オイルメーターによるバイオマスボイラー廃油（なたね油）使用量の計測記録など承認排出削減計画に沿ってモニタリングが実施されていることを確認している。</p> <p>2)活動量の正確性</p> <p>オイルメーターによるバイオマスボイラー廃油（なたね油）使用量の計測記録、生産日報による工場稼働時間の記録にて、報告期間中にわたり、適切かつ正確に記録・集計・保存されていることを確認している。</p> <p>3)単位発熱量、排出係数等の係数の確認</p> <p>排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等が、排出削減方法論（別表）及び承認排出削減事業計画通りであることを確認している。</p>

	<p>なお、ボイラー効率に関しては、適切な廃油の発熱量データが入手できなかったため、低位発熱量のデータをそのまま適用していることを確認している。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を測定結果と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認している。</p>
<p>算定期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないこと</p>	<p>本実績確認の対象期間は、2009 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までであり、排出削減量を算定した期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないことを確認している。</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

本実績報告期間の実績確認の結果、モニタリング方法の一部変更が事業者より説明されたが、質問や根拠資料の閲覧により、変更後のモニタリング方法が計画されていたモニタリング方法よりも正確性の高いモニタリング方法であることを確認した。従って、これを今後のモニタリング方法として採用することは妥当である。

## 6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する省エネ量について、原油換算 8 1 KL であることを確認した。

以上